

令和6年度 第2回恵庭市アイヌ施策推進委員会

日 時 令和7年3月25日（火）10時50分～

会 場 恵庭市郷土資料館 研修室

● 会 議 次 第

1. 開 会

2. 議 題

(1) 令和6年度事業について

①令和6年度各事業の報告と検証について

(2) 恵庭市アイヌ施策推進地域計画のKPI（重要業績評価指標）の達成状況の検証について

(3) 恵庭市アイヌ施策推進地域計画の軽微な変更について

(4) 令和7年度アイヌ政策推進交付金事業について

①アイヌ政策推進交付金事業計画

②アイヌ文化マスター育成事業について

③アイヌ文化学習見学会事業について

④アイヌ文化講演会事業について

⑤ムックリ製作体験事業について

(5) その他

3. 閉 会

會議資料

令和6年度事業について

1. 事業実施の結果（実績）

事業名	実施内容	結果
アイヌ文化マスター育成事業	全8回の講座を実施	実施完了（6名参加）
アイヌ文化学習見学会事業	全1回の見学会を実施	実施完了（31名参加）
アイヌ文化講演会事業	全1回の講演会の実施	実施完了（74名参加）
ムックリ製作体験事業	全1回の体験事業を実施	実施完了（15名参加）

(1) 次頁の3. 令和6年度事業の概要(1)～(4)の事業は恵庭市アイヌ施策推進委員の皆様や参加者の協力のもと、全て終えることができました。詳細は次頁以降を参照。

(2) 事業費は事業内容に若干の変更が生じたため以下のとおり減額となったことから、令和6年2月5日付で内閣官房アイヌ総合政策室宛に「令和6年度アイヌ政策推進交付金交付決定変更申請書」を提出しました。

2. 事業費

- 事業費（当初） 1,433千円（うちアイヌ政策推進交付金の額1,145千円）
 コミュニティ活動支援事業（アイヌ文化マスター育成事業・アイヌ文化学習見学会事業・アイヌ文化講演会事業） 1,433千円

- 事業費（実績） 1,364千円（うちアイヌ政策推進交付金の額1,090千円）
 (55千円の減額)
 コミュニティ活動支援事業（アイヌ文化マスター育成事業・アイヌ文化学習見学会事業・アイヌ文化講演会事業） 1,364千円（68千円の減額）

【参考】

3. 令和6年度事業計画の概要

(1) アイヌ文化マスター育成事業・・・アイヌ文化を学ぶ意欲がある市内に在住する児童生徒6名を公募し、令和6年6月から令和7年2月までアイヌ文化の講座や国立アイヌ民族博物館（白老町）などの見学を行う。また、7月と11月には1泊2日で函館市や、釧路市などで研修を行い、本市の多文化共生社会の実現へとつなげる。事業完了時に参加者に報告書の提出を求めるとともに報告会を開催する。

(2) アイヌ文化学習見学会事業・・・公募した参加者をバスで国立アイヌ民族博物館、知里幸恵銀のしずく記念館、登別市郷土資料館に引率する。単なる見学会にならないようにするため、現地の学芸員に解説を依頼するなどして、アイヌ文化やアイヌと和人ののかかわりを深く学べる機会を提供する内容とする。

(3) アイヌ文化講演会事業・・・アイヌ文化を広く市民の皆様に理解していただくため、市民会館で講演会を行う。2回目となる令和6年度は本委員会の委員長でもある文化庁の内田調査官にご講演をいただく。

(4) ムックリ製作体験事業・・・公募した参加者にムックリ製作体験をしてもらう。ムックリ製作を通じてアイヌ文化を知ってもらい、多文化共生社会を目指す。当日は本委員会の委員でもある藤原恵庭アイヌ協会長に講師をしていただく。

令和6年度各事業の報告と検証について

1. アイヌ文化マスター育成事業

●進捗状況

- ・6月30日 1回目「アイヌ文化の基礎知識」※小中学生6名、恵庭アイヌ協会藤原会長参加。郷土資料館研修室で、当委員会の委員長でもある文化庁内田調査官の講座を実施した。
- ・7月14日 2回目「白糠町等のアイヌ文化学習について」 *小中学生6名、恵庭アイヌ協会藤原会長参加。アイヌミュージアムポコロ等の白糠町内施設では、町職員の方に解説いただいた。釧路市阿寒ではカムイルミナ等を体験した。
- ・9月8日 3回目「アイヌ語の学習」 *小中学生6名、恵庭アイヌ協会藤原会長参加。郷土資料館研修室において、アイヌ語話者で恵庭市在住の池田氏によるアイヌ語の講座を実施した。
- ・10月20日 4回目「イナウ製作見学とムックリ製作体験」 *小中学生6名参加。郷土資料館研修室で恵庭アイヌ協会藤原会長による体験講座。イナウ製作の実演見学、製作体験とムックリ作り体験、演奏体験を行った。
- ・11月9日 5回目「函館市・八雲町等のアイヌ文化学習について」 *小中学生5名（10日 名欠席）、恵庭アイヌ協会藤原会長参加。北方民族資料館や八雲町郷土資料館等では、各施設の学芸員に解説いただいた。
- ・12月8日 6回目「ウポポイでアイヌ文化を学ぼう！」 *小中学生5名参加と恵庭アイヌ協会藤原会長参加（1名欠席）。アイヌ料理調理体験プログラム、伝統芸能上演鑑賞、常設展示室等見学（文化庁内田調査官にご案内をいただいた）を行った。
- ・1月14日 7回目「厚真町のアイヌ文化」 *小中学生6名と恵庭アイヌ協会藤原会長参加。軽舞遺跡調査整理事務所等を見学した。見学先は厚真町の学芸員に解説いただいた。
- ・2月2日 8回目「アイヌ民族について」・「まとめ」・「修了式」 *小中学生6名参加。郷土資料館研修室で恵庭アイヌ協会藤原会長による講話をいただいた。その後参加者が本事業の感想を発表、展示準備を行い、修了証書を授与した。

議題 (1) ①



5 回目「函館市・八雲町等のアイヌ文化学習について」北方民族資料館の木戸館長による解説。



6 回目「ウポポイでアイヌ文化を学ぼう」アイヌ料理調理体験プログラム

*

参加者の感想文は別冊のとおり

2. アイヌ文化学習見学会事業

●進捗状況

8月24日に31名の参加者（一般市民が対象）を迎え、国立アイヌ民族博物館や知里幸恵銀のしずく記念館、登別市郷土資料館の見学会を実施した。



民族共生象徴空間内での解説



登別市郷土資料館内での解説

3. アイヌ文化講演会事業

●進捗状況

- ・6月22日 恵庭市民会館2階大会議室においてアイヌ文化講演会を実施し、74名が参加した。講師は文化庁調査官である内田氏に依頼し、「松浦武四郎が記した幕末の恵庭」という内容でご講演いただいた。



アイヌ文化講演会の様子①



アイヌ文化講演会の様子②

4. ムックリ製作体験事業

●進捗状況

- ・7月27日 郷土資料館研修室において、ムックリ製作体験を実施し、15名が参加した。講師は恵庭アイヌ協会藤原会長に依頼した。



ムックリ製作体験事業の様子①



ムックリ製作体験事業の様子②

恵庭市アイヌ施策推進地域計画の KPI（重要業績評価指標）の達成状況
の検証について

1. 恵庭市アイヌ施策推進地域計画の KPI

*以下、地域計画から抜粋

3 アイヌ施策推進地域計画の目標

(3) 数値目標

事業	地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業
K P I	全事業の総参加人数
令和6年度	70名
令和7年度	70名
令和8年度 (中間目標)	70名
令和9年度	70名
令和10年度 (最終目標)	70名

2. 令和6年度の KPI 達成状況の検討

令和6年度の KPI である「全事業の総参加人数(目標70名)」ですが、今回の総参加人数は、126名となり、達成されました。(参加人数の内訳、アイヌ文化マスター育成事業：6名、アイヌ文化学習見学会事業：31名、アイヌ文化講演会事業：74名、ムックリ製作体験事業：15名)

R6年度アイヌ文化マスター育成事業参加者 アンケート集計

質問① 年齢層についてお答えください。(該当する項目に✓を付けて下さい。)		
	小学生	中学生
回答者数	4名	2名

質問② 全8回を通しての満足度をお答えください。(該当する項目に✓をつけて下さい。)			
回答	<input type="checkbox"/> とても満足 6名	<input type="checkbox"/> やや満足	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない
	<input type="checkbox"/> やや不満	<input type="checkbox"/> とても不満	<input type="checkbox"/> その他()

質問③ 全8回の中で最も印象に残ったのは第何回ですか。また印象に残った理由は何ですか。	
回答	<p>第2回 (理由) 阿寒での体験学習を通してアイヌ民族の生活が近く感じ、山でいろいろな知識が増えたから。</p> <p>第2回 (理由) ムックリがすごくうまくってうれしかったし、アイヌ人の気持ちが分かる気がしたからです。</p> <p>第2回 (理由) このときは、まだアイヌのことについて知らなかったの、新しい発見がたくさんあった。また、アイヌの方々にムックリの弾き方のコツを教えてもらい、弾けるようになった。この日は改めてアイヌ文化って面白いと感じた。</p> <p>第2回 (理由) チセが衝撃的だった。旭川の笹ぶきと同じくらい。映画も日を改めて観たが、感動的だった。</p> <p>第2回 (理由) カムイルミナがとても印象に残ったことです。</p> <p>第8回 (理由) 自分のアイヌに対しての考えが再確認できたから。</p>

質問④ アイヌ文化マスター育成事業の講座について今回学習した内容以外で学びたい事はありますか。	
回答	<ul style="list-style-type: none"> ・イオマンテ禁止令等のアイヌと和人達の交易・やり取りの変化やくわしいこと ・シラッチセカムイノミをやりたいかった。 ・アイヌの儀式に参加してみたい。なぜなら、アイヌの儀式をしている写真やそのときに使う物の名前などを学んだけれど、やっぱり実際に体験してアイヌのことについて学びたいから。 ・もっと縄文文化などと絡めた内容。地域に特化した内容。 ・シラッチセカムイノミやカムイノミイチャルバなどに行ってみたく。 ・恵庭と他の地域では、1つ1つの作法やあいさつなどのどこがどのように違うのか知りたいです。

質問⑤ 全8回の講座を通じて、アイヌ文化についての正しい知識を得ることはできましたか。(該当する項目に✓を付けて下さい。)			
回答	<input type="checkbox"/> とても得られた 5名	<input type="checkbox"/> やや得られた 1名	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない
	<input type="checkbox"/> あまり得られなかった	<input type="checkbox"/> 全く得られなかった	<input type="checkbox"/> その他()

質問⑥ 今後もアイヌ文化マスター育成事業に参加したいと思いませんか。(該当する項目に✓を付けて下さい。)			
回答	<input type="checkbox"/> ぜひ参加したい 2名	<input type="checkbox"/> タイミングが合えば参加したい 4名	<input type="checkbox"/> 内容による
	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> したくない	<input type="checkbox"/> その他()

質問⑦ その他ご意見等がありましたらお聞かせください。	
回答	<p>・また道外事業があったら良いと思います。あと、泊りがけのとき、もう少し自由見学時間があればと思います。ぜひ、高校生の参加許可をお待ちしています！</p>

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

恵庭市郷土資料館

〒061-1375 恵庭市南島松157-2(TEL/FAX 37-1288)

令和6年度アイヌ文化学習見学会アンケート集計表

Q1-1 性別

男	女	未回答	アンケート回答者数
7	20	2	29

Q1-2 年齢

10代まで	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	未回答
1	0	0	0	1	8	16	1	2

Q2 見学会をどこでお知りになりましたか？

広報	ちゃんと	HP	口コミ	その他
17	10	10	3	0

※複数回答有り

Q3 見学会に対する満足度を教えてください。

※満足5点 やや満足4点 どちらとも言えない3点 やや不満2点 不満1点

(1) ウポポイ

平均点 4.8 /5点満点中

満足 (5点)	やや満足 (4点)	どちらとも言えない (3点)	やや不満 (2点)	不満 (1点)
20	6	3	0	0

(2) 知里幸恵銀のしずく記念館

平均点 4.3 /5点満点中

満足 (5点)	やや満足 (4点)	どちらとも言えない (3点)	やや不満 (2点)	不満 (1点)
16	8	4	1	0

意見
(むずかしかった)

(3) 登別郷土資料館

平均点 4.2 /5点満点中

満足 (5点)	やや満足 (4点)	どちらとも言えない (3点)	やや不満 (2点)	不満 (1点)
15	8	5	0	0

意見
(アットホームでしたね)

(5) 全体的に

平均点 4.4 /5点満点中

満足 (5点)	やや満足 (4点)	どちらとも言えない (3点)	やや不満 (2点)	不満 (1点)
20	5	3	0	0

裏面につづく

Q4 Q3の理由

- ・ 知里幸恵銀は時間があまった
- ・ ゆっくりと勉強になったが、出来れば10人程度のグループ毎に説明があればなお良かったかも。ただ、(1)と(2)があれば(3)は不要かも。
- ・ 1 アイヌに対する新たな知識
- ・ 2 知里幸恵さんに関する事項
- ・ 個人ではなかなか行かない所だった!よかった!
- ・ 知里幸恵さんの文章が美しく胸にしみた。登別資料館の「炭化林」は興味深かった。
- ・ ウポポイと銀のしずく記念館は何度か来たことがあり、ウポポイの特別展藤戸竹喜の木ぼりが見れたのが良かったです。
- ・ ウポポイのチセ内の企画をもっと見たかった
- ・ ウポポイもう少しだけゆっくり自由に見る時間があったらうれしい。おみやげウポポイの中で買ったかった。(トイレのあとだと時間少なかった。)
知里→説明の人が良かった。外見たかった 残念
- ・ ウポポイをもっとゆっくり見学したかった。
- ・ アイヌの生活の知恵 興味深い
- ・ 知里幸恵さんを知ってよかった。
- ・ どこも行ったことがない所で説明もありとても良かった。
- ・ 個別で行っても理解できないことが職員の方の説明でなるほど!!と大変勉強になりました。
- ・ どちらも初めての訪問でした。興味深い事ばかりでした。帰宅しパンフレット等を見て復習致します。
- ・ 行きたいと考えていた、ウポポイと知里幸恵銀のしずく記念館に行くことが出来て、大満足でした。
- ・ どの施設も説明が分かりやすくとても楽しく勉強になりました。
- ・ 発見だらけで楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ 普段知りえない事を知る事ができ、良かった。
- ・ ウポポイはもう少しゆっくり見学がしたいと思いました。
- ・ 細かく説明してくださってとても勉強になりました。もっと事前にアイヌ文化について学習しておけばよかったと思いました。
- ・ 3カ所共初めてでした。大人の社会見学。勉強になりました。
- ・ どの施設も見学者の興味をひくように工夫された展示だった。
- ・ ゆっくりで良かった。

Q5 次回もアイヌ文化学習見学会に参加したいと思いますか。

ぜひ参加したい	タイミングが合えば参加したい	イベントの内容による	どちらとも言えない	したくない
11	13	3	1	0

Q6 今後のアイヌ文化学習見学会で行きたい施設など

- ・内陸部のアイヌに関する場所
- ・あまり知られていない所?!
- ・17時まで帰ってこられる所なら、どこでも!!
- ・遠いけど阿寒のシアターを見たいです。
- ・二風谷コタン（平取） 施設が何点かあります。
- ・今回のウポポイ・登別もいいが平取・二風谷
- ・特に希望はありません。日帰りコースで提案して頂ければ参加したい。本日、お世話頂いた皆様に感謝致します。良い一日でした。
- ・北海道資料館？（江別の）
- ・帯広方面
- ・広報、ちゃんと等見て決めたいと思います。今日はお世話になりました。運転手さんも。お疲れ様でした。
- ・小樽・積丹方面の縄文・アイヌの施設

第2回アイヌ文化講演会アンケート

令和6年6月22日(土)

テーマ	松浦武四郎が記録した恵庭のアイヌ文化	講師	内田 祐一 氏 文化庁 調査官
-----	--------------------	----	--------------------

質問① 年齢層についてお答えください。

	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	80歳以上	未回答
人数			2	3	9	14	24	2	1

回答者数 55

質問② どこからお越しになりましたか。(お住まいの地域の該当する項目に✓をつけて下さい。)

回答	<input type="checkbox"/> 恵庭市内 40名 <input type="checkbox"/> その他 14名(北広島市 3名 札幌市 4名 江別 2名 千歳市 5名)
----	---

質問③ 本日の講演会について、ご感想をお聞かせください

	よく理解できた	理解できた	普通	あまり理解できなかった	理解できなかった (理由)
人数	30	17	4	3	

植物にあまり興味がないので衣料については理解できました。

質問④ 本日の講演会の中で、印象に残ったことは何ですか。

回答 (箇条書きで構いません)	<ul style="list-style-type: none"> ・松浦武四郎の他同時代に作成された地図や絵図等多様な歴史資料から多角的にアイヌの人々の生活の様子を伺い知る事ができてとても勉強になりました。特に食(薬)文化の話は現代の私達の食文化にひきつがれている部分も多くあるという事がわかってとても印象に残りました。 ・アイヌ文化に塩はないとのことですが、塩の必要性はなかったのですか？ ・内田氏御自身が楽しそうに話されている姿が好印象でアツと言う間の90分！もっとも恵庭の歴史を知りたいと願っています。早速「かしわのもり」へ行って来ます。 ・川についての話。 ・恵庭の地域は交易にしろ便利な地であった。クマの被害は当時あったのか ・食べもの ・昔の島松川の合流地点の話、恵庭市は本当はもっと広い! ・漁太…つるが多い ・アイヌの生活や文化について ・北広島と恵庭の行政境と島松川の話 ・過去を知って現在が理解できた感じがする ・植物、魚類、衣類 ・アイヌ文化に塩を使う保存方法がないということ ・アイヌの食べ物を写真付で紹介してくれたところ。ルイベの語源が「溶けた食べ物」だった説 ・アイヌの方々の食事(調理法)、衣類、保存法、など ・アイヌの衣食文化よく知れました。自然と共存(‘うばう’ではなく) 次は‘住’よろしく願います ・イオマンテ・オブニレの意味が少し理解できた。 ・今回も時間切れでした～ ・時間が足りないので定期的に講演してほしい。 ・第1回の講演会に出席できなかった(知らなかった)がそちらの方がよかったかも知れない ・いろいろ本を読んだり、調べたりしますが、専門家の内田さんのお話を聞く事が100倍よく分かって楽しく聞く事ができました。 ・食料の色々! ・食料の保存 ・アイヌの文化が興味深い ・シママツ川の重要を知ることが出来た。かしわのもりは毎日通っているので寄ってみたい ・アイヌ語の地名 ・食文化など良くわかった。
--------------------	---

- ・食べ物、つくり方
- ・食材の保ぞん方法
- ・食料及び作り方、衣類及び作り方(実に多種多様)、言語の意(日本語を含め)植物と動物の性質をつかんでそれを利用(?)する様
- ・木の皮から服を作ることに仰天した
- ・アイヌの人々も畑作していたのも興味深かったです。
- ・武四郎が残した記録からの解説が面白かったです。アイヌの宗教観も勉強になりました。
- ・ギョウジャンニクのより美味しい食べ方(保存食)
- ・恵庭にもアイヌの人達が暮らしていた
- ・地域別に食、衣服、畑で育てているものなどについてこんなに細かく記録されていることからまた武四郎さんとアイヌの人々の関係の深さを感じられました。内田先生のお話、とても面白かったです。勉強になりました。ありがとうございます！
- ・北海道のアイヌ文化の偉大な力が良く理解できました。
- ・とても楽しかったです。恵庭の由来？
- ・配布資料見るとアイヌの惨状が多く表してある。内田さんて名前知ってたけど話聞いたのは初めて
- ・本当はこういうことをくわしく説明すべき、反発されるからやらないのか？事実なのに耳当たりのいい話ばかりではダメ
- ・今ある地名、地域と松浦武四郎が見た様子の比較が面白かったです。
- ・松浦武四郎は歩いたところがわかった。アイヌの魚りよのしかたなど、アイヌの人が農業をしていたのがわかった。
- ・支所の区分
- ・アイヌの生活(衣・食)
- ・北大島市と恵庭市の境界にまつわる話が面白く、現地を確認してみたいと思いました。
- ・アイヌの生活(食生活)などが現在にも参考となることが多いと感じた事

質問⑤ 本日の講演会を何でお知りになりましたか。

	広報えにわ	ちゃんと	ポスター	ホームページ	人から聞いた	その他
人数	16	5	25	9	3	14(長寿大学 2 新聞 5 Facebook 1 郷土資料館 2 学芸員 1 アプリ 1)

質問⑥ 次回もカリンバ講演会に出席したいと思いますか？

	ぜひ参加したい	タイミングが合えば参加したい	内容による	どちらとも言えない	したくない
人数	20	24	2		

質問⑦ 今後ご希望のテーマや、ご意見等がありましたらお聞かせください。

回答

- ・プロジェクターのスクリーンをもっと高くしてほしい。(合に乗せる等)
- ・内田先生の講義の続編を切望します。恵庭の住人となって下さって大歓迎です。私は在住33年目を迎えましたヨ。
- ・恵庭市内のアイヌ語地名のいろいろ(ウソ、ホント)
- ・深く理解したくなった。
- ・恵庭市はなぜ恵庭になったのか。他市町村の例を並べて
- ・私とアイヌ人との比較、人種的にどこが違うのか。海に近いアイヌと内陸のアイヌの生活比較アイヌの衣食住？
- ・アイヌの星座及び神話夷酋列像のアイヌ達への話
- ・松浦武四郎が北海道全域の調査状況など簡単にまとめた講演が聞きたい
- ・アイヌの生活の中の話で食物、薬用に関する話を伺いたい、特に植物の話は面白かった。第3回、お待ち申し上げます。
- ・縄文人とアイヌ人関や文化のかかわり？
- ・興味深い内容で再度続き聞きたい
- ・松浦武四郎が好きなので関連する話をききたい
- ・盤尻でくま送りしていた話を聞いたことがありますが、アイヌ講座で再度やってもらいたいです。「エニワ」の名前の謎、面白かったです
- ・話の続きをぜひきいてみたい。
- ・明治天皇のご一行について
- ・私は北海道聖書学院という神学校で北海道キリスト教史を担当しているため今後とも同様の講演をお聞きしたいです。
- ・恵庭在住(生活定住)と事前に知らされて良かった。東京の文化庁から来道されたかと理解していた
- ・アイヌ文化が現代の生活に影響を与えているものは何なのか？恵庭市の名前の由来。恵庭は昔どんな土地だったのか？(畑？川？沼？)
- ・アイヌ語と地名の関係について(ラッコなどのアイヌ語と現代日本語の関係も含め)

- ・儀式についてはもちろん、アイヌの人々の日常生活やイベント(誕生日や記念日など)など、今の私たちの生活と照らし合わせて教えて頂きたいです。
- ・恵庭市のなりたち、明治前後からの歴史
- ・アイヌ語地名 山田秀三
- ・松浦武四郎の北海道でのくわしい話し アイヌ文化についても！

恵庭市アイヌ施策推進地域計画の軽微な変更について

1. 変更内容について

6法第15条第1項の交付金を充てて行う事業の内容、期間及び事業費 (3) コミュニティ活動支援事業について、令和6年度における事業費が当初の地域計画と異なったため、事業費7,082千円から6,907千円に変更されている。

8目標の達成状況に係る評価に関する事項 (1) 目標の達成状況にかかる評価の手法について、誤った表記になっていたため修正した。

変更内容 (赤字下線部が変更したもの)

*地域計画より抜粋

変更後	変更前
1～5 (略)	1～5 (略)
6 法第15条第1項の交付金を充てて行う事業の内容、期間及び事業費 (3) コミュニティ活動支援事業 事業内容：4-4と同じ 事業期間：令和6年度～令和10年度 事業費： <u>6,907千円</u>	6 法第15条第1項の交付金を充てて行う事業の内容、期間及び事業費 (3) コミュニティ活動支援事業 事業内容：4-4と同じ 事業期間：令和6年度～令和10年度 事業費： <u>7,082千円</u>
7 (略)	7 (略)
8 目標の達成状況に係る評価に関する事項 (1) 目標の達成状況にかかる評価の手法 3に記載するKPIである、 <u>全事業の総参加人数</u> について公表する。また有識者委員会により、目標の達成状況等について検証を行い、改善点を踏まえて計画期間内の事業実施等に反映する。	8 目標の達成状況に係る評価に関する事項 (1) 目標の達成状況にかかる評価の手法 3に記載するKPIである、 <u>アイヌ文化マスタワー育成事業への参加人数</u> について公表する。また有識者委員会により、目標の達成状況等について検証を行い、改善点を踏まえて計画期間内の事業実施等に反映する。
8 (2)～(3) (略)	8 (2)～(3) (略)
9～10 (略)	9～10 (略)

アイヌ施策推進地域計画

- 1 アイヌ施策推進地域計画の名称
恵庭市アイヌ施策推進地域計画
- 2 アイヌ施策推進地域計画の作成主体の名称
北海道恵庭市
- 3 アイヌ施策推進地域計画の目標

(1) 地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題

恵庭市においては、市の名称である「恵庭」、市内の中心部を流れる「漁（いざり）」川などアイヌ語由来の地名が数多く残されている。明治後期から大正時代にかけては旧カリンバ川中流域の恵庭・千歳地区にまたがって「カマカコタン」があり、歴史的にアイヌ文化等に関わりが深い。発掘調査でも市内各地の遺跡からアイヌが暮らしていた痕跡が確認されている。中でも旧カリンバ川上流右岸の約1kmの範囲からは推定300～500年前の建物跡が100軒以上見つかっており「カリンバコタン」とも呼ぶべき集落が連綿と長期間に渡り営まれたと考えられる。しかし、残念なことに伝承の記録等は残っていない。チャシ跡に関しては、令和5年時点で茂漁チャシ跡、島松Bチャシ跡、島松Cチャシ跡、カリンバチャシ跡の4か所が確認されている。カリンバチャシ跡は部分的に発掘調査が行われており、アイヌ文化期の溝状遺構と柱穴列が確認されている。恵庭市西側の山岳地帯にはシラッチセ（岩屋）と呼ばれるアイヌが熊猟をした際の拠点が3か所現存する。本流の岩屋、三股の岩屋、金山沢の岩屋で、いずれも溶結凝灰岩が南側にひさし状にせり出した地形で、日当たりが良く雨や雪を避けられる場所を利用している。アイヌはここに設置した仮小屋に寝泊まりし、冬眠明けの熊を狙って猟を行った。捕獲した熊は山で解体し、頭骨を岩屋の祭壇に祀ってオプニレ（熊送り）を行った。現存する岩屋が使われた記録が残るのは昭和時代以降だが、かなり昔から岩屋を拠点とする熊猟がアイヌにより行われていたと考えられる。

恵庭市には昭和50年に恵庭アイヌ協会（旧社団法人北海道ウタリ協会恵庭支部）が設立され、これまでアイヌ文化の復興や伝承を図ってきた。恵庭アイヌ協会の会員数は平成18年には20世帯を数えたが、令和5年12月現在7世帯と減少が著しい。またアイヌにルーツを持ちながらも自ら「アイヌ民族」を表明しない人々や自覚しない人々（サイレントアイヌ）もいるものと推察される。このような中で恵庭アイヌ協会は平成24年から本流の岩屋でシラッチセカムイノミ（岩屋での祈りの儀式）を開催し、また令和

議題 (3)

5年10月には恵庭市埋蔵文化財整理室でカムイノミ・イチャルパを実施し、アイヌ文化の保護と継承に努めてきた。

恵庭市郷土資料館では、平成28年に企画展「モノから見たアイヌ文化」を開催し、翌29年には（公財）アイヌ文化振興・研究推進機構（当時）の助成金を利用して常設展示室第3部「アイヌモシリ」を改修し、恵庭のアイヌ文化の特徴である考古資料の刀や刀子を数多く展示するなど、市内ではアイヌの歴史や文化を学ぶ機会の充実が図られた。さらに令和3年からは、アイヌ政策推進交付金を活用して市内の中高生6名を対象としたアイヌ文化マスター育成事業や、一般市民を対象としたアイヌ文化学習見学会を開催している。令和5年からは市民に向けたさらなる学習機会を提供するためにアイヌ文化講演会も開催している。このように、アイヌ文化を学ぶ機会が増えたことで、市民の関心がより一層高まりつつある。しかしながらアイヌ政策推進交付金事業についてはまだ始めてから日が浅いことから市民全体にアイヌ文化への関心が広く浸透しているとは言い難い。また、恵庭アイヌ協会の減少や経済的理由により文化伝承活動に専念することができないなど、アイヌ文化等の担い手が不足しており、次世代への円滑な継承が課題となっている。シラッチセカムイノミとカムイノミ・イチャルパは運営の多くに近隣アイヌ協会の支援を受けて開催しているが、いずれも継続が困難になると予想されている。

このことから、継続してアイヌ文化について学ぶ機会を提供し、市民全員が先住民族アイヌの文化に愛着や誇り、アイデンティティを感じ、アイヌやサイレントアイヌの人々が自らのルーツに誇りを持って生きられる社会を実現することが重要である。

*アイヌ関連団体

- ・恵庭アイヌ協会（設立：昭和50年6月、代表者：会長 藤原 顕達氏、
会員数：7世帯）

*アイヌ文化等関連施設

- ・恵庭市郷土資料館

所在：恵庭市南島松157-2

現況：平成2年11月設立。アイヌ関連の考古・民俗資料の展示。アイヌ関連の企画展や講座等の開催。

(2) アイヌ施策推進地域計画の目標

アイヌ文化等の次世代への承継を確実なものとするとともに、地域に存在するアイヌ文化等を発信し、内外におけるアイヌ関連の交流活動を活発化させ、魅力ある地域社会の形成を目標とする。

議題 (3)

(3) 数値目標

事業	地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業
K P I	全事業の総参加人数
令和6年度	70名
令和7年度	70名
令和8年度	70名
令和9年度	70名
令和10年度	70名

4 アイヌ施策の推進に必要な事業に関する事項

4-4 地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業

■アイヌ文化マスター育成事業・・・市内の児童生徒がアイヌ語や恵庭市、釧路市阿寒などのアイヌ文化を学び、その集大成としてアイヌの人々や児童生徒を多文化共生、先住民尊重の先進地へ派遣し、本市の多文化共生社会の実現へとつなげる。事業完了時に参加者に報告書の提出を求めるとともに報告会を開催する。また有識者委員会を定期的で開催し、事業の検討や評価などを行う。

■アイヌ文化学習見学会事業・・・公募した参加者をバスで国立アイヌ民族博物館などのアイヌ文化関連施設に引率する。単なる見学会にならないようするため、現地の学芸員に解説を依頼するなどして、アイヌ文化やアイヌと和人とのかわりを深く学べる機会を提供する内容とする。

■アイヌ文化講演会事業・・・アイヌの歴史や文化に関する市民の理解促進を図るため、アイヌ文化講演会を開催する。

■ムックリ製作体験事業・・・公募した参加者がムックリ製作を行う。製作体験を通じてアイヌ文化を知る機会を提供し、多文化共生社会の実現を目指す。

5 計画期間

令和6年4月1日から令和11年3月31日まで

6 法第15条第1項の交付金を充てて行う事業の内容、期間及び事業費

(3) コミュニティ活動支援事業

事業内容：4-4と同じ

事業期間：令和6年度～令和10年度

議題 (3)

事業費：6,907千円

7 アイヌ施策推進地域計画が法第10条第9項各号に掲げる基準に適合すると認められる理由

(1) 「アイヌ施策の意義及び目標」との適合性 (第1号基準)

「アイヌ施策の意義及び目標」に適合したアイヌ施策の推進を図るために必要な事業の記載 (第2号基準)

■4-4に記載する事業は、道内のアイヌ文化を学び、海外の多文化共生社会づくりの先進事例を視察し、活動環境の改善を図ることによって、アイヌの人々が誇りを持って生活することができ、その誇りが尊重される社会の実現を図るものであり、多文化共生社会の実現に寄与するものである。

(2) 反社会的勢力やその関係者 (以下「反社会的勢力等」という。) の関与の可能性 (第2号基準)

全ての事業については、恵庭市の事業として実施するものであり、反社会的勢力等の関与はない。また全ての事業は、本市が定める入札資格を満たし、かつ他の事業実績を有する事業者への委託を想定しているが、反社会的勢力等の関与は認められない。

(3) 円滑かつ確実に実施されると見込まれるものであること (第3号基準)

■事業の実施主体の特定

6で記載の事業については、事業担当部署である恵庭市郷土資料館が事業者を特定もしくは想定しており、その妥当性を検証している。

■事業実施スケジュールの明確性

6で添付の工程表は、事業担当部署である恵庭市郷土資料館が特定もしくは想定している事業者からの聞き取りを踏まえて作成したものであり、その妥当性を検証している。

■地域住民の意見聴取

計画策定に当たり、恵庭市アイヌ協会から意見を聞いているが、反対意見はなかった。

8 目標の達成状況に係る評価に関する事項

(1) 目標の達成状況にかかる評価の手法

3に記載するKPIである、**全事業の総参加人数**について公表する。また有識者委員会により、目標の達成状況等について検証を行い、改善点を踏まえて計画期間内の事業実施等に反映する。

(2) 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

議題 (3)

- ・評価の時期：目標の達成状況については、令和10年度末時点で最終評価を行うほか、令和8年度末時点で中間評価を行う。KPI の達成状況の検証は、計画期間における毎年度3月までに行う。
- ・評価を行う内容：数値目標の達成状況について、毎年度5月に有識者委員会による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。

(3) 目標の達成状況に係る評価結果の公表の手法

目標の達成状況に係る評価結果については、市公式ウェブサイトにて公表する。

9 法第10条第4項に規定する事業の実施により採取する林産物の種類、当該林産物を採取する場所、当該事業の必要性その他の内閣総理大臣が必要と認める事項

*記載事項なし

10 内水面さけ採捕事業を実施する期間、当該内水面さけ採捕事業に使用する漁具その他の内閣総理大臣が必要と認める事項

*記載事項なし

令和7年度アイヌ政策推進交付金事業について

1. 事業計画

- 事業費 1,308 千円（うちアイヌ政策推進交付金の額 1,045 千円）
コミュニティ活動支援事業（アイヌ文化マスター育成事業・アイヌ文化学習見学会事業・アイヌ文化講演会事業・ムックリ製作体験事業） 1,045 千円

2. 令和7年度事業の概要

(1) アイヌ文化マスター育成事業・・・アイヌ文化を学ぶ意欲がある市内に在住する小中学生6名を公募し、全8回の講座を実施する。期間は令和7年6月から令和8年2月までとし、アイヌ文化の講座や国立アイヌ民族博物館（白老町）などの見学を行う。また、1泊2日で網走市等や平取町等で研修を行い、本市の多文化共生社会の実現へとつなげる。事業完了時に参加者に報告書の提出を求めるとともに報告会を開催する。詳細は別紙参照。

(2) アイヌ文化学習見学会事業・・・公募した参加者をバスで白老町（国立アイヌ民族博物館）に引率する。単なる見学会にならないようにするため、現地の学芸員に解説を依頼するなどして、アイヌ文化やアイヌと和人とのかかわりを深く学べる機会を提供する内容とする。詳細は別紙参照。

(3) アイヌ文化講演会事業・・・アイヌ文化を広く市民の皆様に理解していただくため、市民会館で講演会を行う。3回目となる令和7年度も本委員会の委員長でもある文化庁の内田調査官にご講演をいただく。詳細は別紙参照。

(4) ムックリ製作体験事業・・・公募した参加者にムックリ製作体験をしてもらう。ムックリ製作を通じてアイヌ文化を知ってもらい、多文化共生社会の実現を目指す。初回となる今年度は、恵庭市郷土資料館主催のカリンバまつりと同日に実施する。詳細は別紙参照。

アイヌ政策推進交付金事業計画

1 事業名	恵庭市アイヌ施策推進事業
2 事業の種類	(文化振興事業) (地域・産業振興事業) (コミュニティ活動支援事業)
3 事業の目的	アイヌ文化を保存・継承・振興するとともに、アイヌ民族の歴史や文化に対する市民の理解を深めることにより、アイヌ民族の誇りが尊重される多文化共生社会を目指す。
4 事業の概要	<p>3) コミュニティ活動支援事業</p> <p>■アイヌ文化マスター育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業実施主体 北海道恵庭市 ○事業の実施場所 恵庭市郷土資料館等 ○事業の実施期間 令和7年4月～令和8年3月 ○事業の内容と考え方 市内在住の児童生徒6名が恵庭市や平取町などでアイヌ文化を学ぶ。またアイヌ文化に関する資料を多数収蔵されている平取町立二風谷アイヌ文化博物館などへ1泊2日で派遣し、アイヌ文化への正しい理解を深め、本市の多文化共生社会の実現へとつなげる。事業完了時に参加者にレポートの提出を求めるとともに報告会を開催する。 <p>■アイヌ文化学習見学会事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業実施主体 北海道恵庭市 ○事業の実施場所 国立アイヌ民族博物館 ○事業の実施期間 令和7年4月～令和8年3月 ○事業の内容と考え方 公募した参加者をバスで国立アイヌ民族博物館に引率する。単なる見学会にならないようにするため、現地の学芸員に解説を依頼するなどして、アイヌ文化やアイヌと和人とのかかわりを深く学べる機会を提供する内容とする。 <p>■アイヌ文化講演会事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業実施主体 北海道恵庭市 ○事業の実施場所 恵庭市民会館 ○事業の実施期間 令和7年4月～令和8年3月 ○事業の内容と考え方 アイヌの歴史や文化に関する市民の理解促進を図るため、アイヌ文化講演会を開催する。 <p>■ムックリ製作体験事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業実施主体 北海道恵庭市 ○事業実施場所 恵庭市郷土資料館 ○事業実施期間 令和7年7月 ○事業の内容と考え方 「カリンバまつり」の時期に、公募した参加者がムックリ製作を行う。製作体験を通じてアイヌ文化を知る機会を提供し、多文化共生社会の実現を目指す。

<p>5 アイヌ施策推進地域計画における記載</p>	<p>4-4 地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業 ■アイヌ文化マスター育成事業・・・市内の児童生徒がアイヌ語や恵庭市、釧路市阿寒などのアイヌ文化を学び、その集大成としてアイヌの人々や児童生徒を多文化共生、先住民尊重の先進地へ派遣し、本市の多文化共生社会の実現へとつなげる。事業完了時に参加者に報告書の提出を求めるとともに報告会を開催する。 ■アイヌ文化学習見学会事業・・・公募した参加者をバスで国立アイヌ民族博物館などに引率する。単なる見学会にならないようにするため、現地の学芸員に解説を依頼するなどして、アイヌ文化やアイヌと和人とのかかわりを深く学べる機会を提供する内容とする。 ■アイヌ文化講演会事業・・・アイヌの歴史や文化に関する市民の理解促進を図るため、アイヌ文化講演会を開催する。 ■ムックリ製作体験事業・・・公募した参加者がムックリ製作を行う。製作体験を通じてアイヌ文化を知る機会を提供し、多文化共生社会の実現を目指す。</p>
<p>6 事業の成果目標等</p>	
<p>(1) 成果目標の達成に向けた工程</p>	<p>(3) コミュニティ活動支援事業 ■アイヌ文化マスター育成事業・・・市内の児童生徒がアイヌ文化や他国の先住民文化に触れる機会を提供しアイヌ文化や多文化共生、様々な先住民尊重に対する理解を深めることを目的として行う事業であり、体験の機会が増えるほど効果が高まると考えられる。 ■アイヌ文化学習見学会事業・・・広く小学生から一般にも正しいアイヌ文化に触れる機会を提供しアイヌ文化や多文化共生に対する理解を深めることを目的として行う事業であり、体験の機会が増えるほど効果が高まると考えられる。 ■アイヌ文化講演会事業・・・広く小学生から一般にも正しいアイヌ文化を学ぶ機会を提供しアイヌ文化や多文化共生に対する理解を深めることを目的として行う事業であり、学習の機会が増えるほど効果が高まると考えられる。 ■ムックリ製作体験事業・・・広く小学生から一般にも、ムックリを通じてアイヌ文化と触れあう機会を提供しアイヌ文化や多文化共生に対する理解を深めることを目的として行う事業であり、体験の機会が増えるほど効果が高まると考えられる。</p>
<p>(2) 成果目標、(中間)目標年度(成果目標に対する現状値、及び成果目標の達成見込みについて記載すること)</p>	<p>(3) コミュニティ活動支援事業 ■全事業の総参加人数 (中間目標) 令和8年度 70名 (最終目標) 令和10年度 70名 (現状値) 令和6年度 126名 (令和3～5年度平均値) 56名</p>
<p>(3) 成果目標の確認方法</p>	<p>KPIである全事業の総参加人数は実績値を公表し、有識者委員会で目標の達成状況について検証する。</p>
<p>7 地域の概要</p>	
<p>(1) 地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題</p>	<p>恵庭市においては、市の名称である「恵庭」、市内の中心部を流れる「漁(いざり)」川などアイヌ語由来の地名が数多く残されている。明治後期から大正時代にかけては旧カリンバ川中流域の恵庭・千歳地区にまたがって「カマコタン」があり、歴史的にアイヌ文化等に関わりが深い。発掘調査でも市内各地の遺跡からアイヌが暮らしていた痕跡が確認されている。中でも旧カリンバ川上流右岸の約1kmの範囲からは推定300～500年前の建物跡が100軒以上見つかり「カリンバコタン」とも呼ぶべき集落が連綿と長期間に渡り営まれたと考えられる。しかし、残念なことに伝承の記録等は残っていない。チャシ跡に関しては、令和5年時点で茂漁チャシ跡、島松Bチャシ跡、島松Cチャシ跡、カリンバチャシ跡の4か所が確認されている。カリンバチャシ跡は部分的に発掘調査が行われており、アイヌ文化期の溝状遺構と柱穴列が確認されている。恵庭市西側の山岳地帯にはシラッチセ(岩屋)と呼ばれるアイヌが熊猟を</p>

議題 (4) ①

	<p>した際の拠点が3か所現存する。本流の岩屋、三股の岩屋、金山沢の岩屋で、いずれも溶結凝灰岩が南側にひさし状にせり出した地形で、日当たりが良く雨や雪を避けられる場所を利用している。アイヌはここに設置した仮小屋に寝泊まりし、冬眠明けの熊を狙って猟を行った。捕獲した熊は山で解体し、頭骨を岩屋の祭壇に祀ってオプニレ（熊送り）を行った。現存する岩屋が使われた記録が残るのは昭和時代以降だが、かなり昔から岩屋を拠点とする熊猟がアイヌにより行われていたと考えられる。</p> <p>恵庭市には昭和50年に恵庭アイヌ協会（旧社団法人北海道ウタリ協会恵庭支部）が設立され、これまでアイヌ文化の復興や伝承を図ってきた。恵庭アイヌ協会の会員数は平成18年には20世帯を数えたが、令和5年12月現在7世帯と減少が著しい。またアイヌにルーツを持ちながらも自ら「アイヌ民族」を表明しない人々や自覚しない人々（サイレントアイヌ）もいるものと推察される。このような中で恵庭アイヌ協会は平成24年から本流の岩屋でシラッチセカムイノミ（岩屋での祈りの儀式）を開催し、また令和5年10月にはアイヌ政策推進交付金を活用した事業の一環で、恵庭市埋蔵文化財整理室で、カムイノミ・イチャルパを実施し、アイヌ文化の保護と継承に努めてきた。</p> <p>恵庭市郷土資料館では、平成28年に企画展「モノから見たアイヌ文化」を開催し、翌29年には（公財）アイヌ文化振興・研究推進機構（当時）の助成金を利用して常設展示室第3部「アイヌモシリ」を改修し、恵庭のアイヌ文化の特徴である考古資料の刀や刀子を数多く展示するなど、市内ではアイヌの歴史や文化を学ぶ機会の充実が図られた。さらに令和3年からは、アイヌ政策推進交付金を活用して市内の中高生6名を対象としたアイヌ文化マスター育成事業や、一般市民を対象としたアイヌ文化学習見学会を開催している。令和5年からは市民に向けたさらなる学習機会を提供するためにアイヌ文化講演会も開催している。このように、アイヌ文化を学ぶ機会が増えたことで、市民の関心がより一層高まりつつある。しかしながらアイヌ政策推進交付金事業についてはまだ始めてから日が浅いことから市民全体にアイヌ文化への関心が広く浸透しているとは言い難い。また、恵庭アイヌ協会員の減少や経済的理由により文化伝承活動に専念することができないなど、アイヌ文化等の担い手が不足しており、次世代への円滑な継承が課題となっている。シラッチセカムイノミとカムイノミ・イチャルパは運営の多くに近隣アイヌ協会の支援を受けて開催しているが、いずれも継続が困難になると予想されている。</p> <p>このことから、継続してアイヌ文化について学ぶ機会を提供し、市民全員が先住民アイヌの文化に愛着や誇り、アイデンティティーを感じ、アイヌやサイレントアイヌの人々が自らのルーツに誇りを持って生きられる社会を実現することが重要である。</p>
(2) 施設等の管理運営体制	<p>恵庭市郷土資料館は恵庭市が管理している。 恵庭市埋蔵文化財整理室は恵庭市郷土資料館が管理している</p>
(3) アイヌ関係団体及び地域住民の協力体制	<p>恵庭アイヌ協会とは定期的に意見交換を行っている。</p>

「アイヌ文化マスター育成事業」企画書

- 内容、タイトル 講座・体験等、「アイヌ文化マスター育成事業」
- 目的 アイヌ文化への理解を深め、多文化共生社会の実現を目指す
- 対象 市内に在住、または市内の学校に通うアイヌ文化に関心がある
小学4年生～中学3年生の計6名（公募）
*オブザーバーとして恵庭アイヌ協会長が参加（例年参加されている）、宿泊を
伴う回の担当（引率）は資料館学芸員2名を想定
*開催日程については未定

第1回 6月29日（日） 9:00～11:00

講座：「アイヌ文化の基礎知識」

場所：恵庭市郷土資料館

講師：文化庁 内田調査官

担当：恵庭市郷土資料館 学芸員 杉浦

第2回 7月27日（日）

8:50～ 9:45 恵庭市郷土資料館発、移動（恵庭 IC—白老 IC）

9:45～15:00 ウポポイ着、見学、昼食

15:00～16:00 ウポポイ発、移動（白老 IC—恵庭 IC）

16:00 恵庭市郷土資料館到着

場所：ウポポイ

担当：恵庭市郷土資料館 学芸員 杉浦、長町

第3回 9月28日（日） 9:00～10:30

講座：「アイヌの言葉と唄を学ぶ」

場所：恵庭市郷土資料館

講師：アイヌ語話者 池田氏（恵庭市在住）

担当：恵庭市郷土資料館 学芸員 杉浦

議題 (4) ②

第4回 10月18日、19日(土・日) 北見市常呂・網走市

土曜日

8:00 恵庭市郷土資料館発
8:00～13:40 移動(恵庭IC-遠軽IC)、昼食
13:40～15:40 ところ遺跡の館、トコロチャシ跡遺跡群見学
15:40～16:10 移動
16:10 ホテル着

日曜日

8:45 ホテル発
8:45～9:00 移動
9:00～11:00 北方民族博物館見学
11:00～11:10 移動
11:10～14:10 昼食、博物館網走監獄見学
14:10～19:20 移動(遠軽IC-恵庭IC)
19:20 恵庭市郷土資料館着
見学等:「北見市常呂・網走市のアイヌ文化」
場所:ところ遺跡の館、トコロチャシ跡遺跡群、北方民族博物館、博物館網走監獄
担当:恵庭市郷土資料館 学芸員 杉浦、長町

第5回 11月30日(日) 9:00～10:30

体験:「恵庭のアイヌ文化」
場所:恵庭市郷土資料館
講師:恵庭市郷土資料館 学芸員 長町
担当:恵庭市郷土資料館 学芸員 杉浦

第6回 12月13・14日(土・日) 新ひだか町・平取町

土曜日

9:00 恵庭市郷土資料館発
9:00～11:10 移動(恵庭IC-日高厚賀IC)
11:10～13:10 新ひだか町博物館着、見学、昼食
13:10～16:40 町内を見学しつつホテルへ移動
16:40 ホテル着(休憩、夕食)

日曜日

8:15 ホテル発

議題 (4) ②

8:15～9:25 移動（日高厚賀 IC—日高富川 IC）

9:25～14:10 沙流川歴史館、平取町立二風谷アイヌ文化博物館着、見学、コースター
製作体験、昼食

14:10～14:20 移動

14:20～15:00 旧マンロー邸見学

15:00～16:30 移動（日高富川 IC～恵庭 IC）

16:30 恵庭市郷土資料館着

見学等：「新ひだか町・平取町のアイヌ文化」

場所：新ひだか町博物館、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、マンロー邸

講師：各館の学芸員

担当：恵庭市郷土資料館 学芸員 杉浦、長町

第7回 1月18日（日）

体験：「イナウ製作見学とムックリ製作体験」

場所：恵庭市郷土資料館

講師：恵庭アイヌ協会 藤原会長

担当：恵庭市郷土資料館 学芸員 杉浦

第8回 2月1日（日） 9:00～10:30 講和・報告会

①講和：「アイヌ民族について」

②報告会：「まとめ」

場所：恵庭市郷土資料館

講師：①恵庭アイヌ協会 藤原会長

②恵庭市郷土資料館 学芸員 杉浦

担当：恵庭市郷土資料館 学芸員 杉浦

「アイヌ文化学習見学会」企画書

- 内容、タイトル 見学・体験等、「アイヌ文化学習見学会事業」
- 日程 8月9日(土) *開催日程は未定
- 目的 アイヌ文化への理解を深め、多文化共生社会の実現を目指す
- 対象 アイヌ文化に関心がある方
小学生以上(小学生は保護者同伴)
- 参加費 入館料等実費
- 定員 40名 *その他引率2名
- 行先
9:00 恵庭市役所出発
9:00~9:45 移動
9:45~15:00 ウポポイ着、見学、昼食
15:10 出発
15:10~15:55 移動
15:55 恵庭市役所着、解散

「第3回アイヌ文化講演会」企画書（仮）

●内容、タイトル

講演会、「アイヌ文化講演会」

●事業主体 郷土資料館主催

●目的 アイヌ文化の振興と民族共生社会の実現に向けての啓発

●趣旨 恵庭市では令和2年度から国のアイヌ政策推進交付金を活用し、アイヌ文化マスター育成事業やアイヌ文化学習見学会事業などを行っている。現在恵庭アイヌ協会に属している方はわずか6世帯であるが、カリンバ遺跡群を始めとする恵庭の遺跡からはアイヌ文化期の建物跡や墓などの遺構、刀類や鉄鍋などの遺物が数多く確認されています。ですが、それらの事実は市民の皆様あまり知られていません。

そこで、この講演会を行いアイヌ文化への理解を市民の皆様を広げたいと考えています。

●対象 小学4年生以上を対象

●日程・テーマ

11月30日

文化庁 内田 祐一 氏

●時間 14時00分から15時30分

●会場 恵庭市民会館大会議室

●定員 先着100名（無料）

ムックリ製作体験

- 内容、タイトル 講座・体験等、「ムックリ製作体験」
- 目的 ムックリ製作体験を通じてアイヌ文化を知ってもらい、多文化共生社会の実現を目指す
- 対象 小学生以上 15 名
- 日程 カリンバ祭りと同じ日
- 場所 恵庭市郷土資料館
- 参加費 100 円